

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No.198 令和7年 10月15日

発行 社会福祉法人 武蔵野会

本部 東京都八王子市旭町12-4.201 TEL042(631)6341

<https://musashinokai.jp/>



特集 食の取り組み

とっておきの音楽祭ALL JAPAN in泉佐野～BBB出演 鳥山福祉作業所

トーク

備えはケアの始まり
～災害と共に生きるために～

台風や地震は「非日常」ではなく、日本の暮らしの裏側にある日常です。立場を問わず、誰もが知っておきたいのは、災害時に人を守る視点です。命を守ること。次に避難生活を支えること。そして日常を取り戻すこと。この順番を意識できると準備もぐっと現実的になります。

備えは人に合わせて整えることと安心です。連絡先や服薬、アレルギー、配慮してほしいことを個別カード1枚にまとめて携行しておくことと伝達がスムーズになります。家族の3日分の食と水を決め、常温食品を多めに置き、使った分を補充します。停電・断水を前提に、カセットコンロやポリ袋調理、経口補水、とろみ材を備えておくことと安心です。水は1人1日3リットルが目安です。

一般の避難所で過ごしていく場合は、まず指定緊急避難場所での安全を確保し、そのうえで受付に困りごとを伝えてください。静かなスペースの案内や状況が整いしだい福祉避難スペース・福祉避難所への移動を自治体が調整する場合があります（発災直後は時間を要する場合があります）。平時の避難行動要支援者名簿登録と配慮カードがあると、受け入れは進みやすくなります。

障害のある方や高齢の方が、災害で命を落とすことがあってはなりません。だからこそ、地域と顔の見える関係を少しずつ育て、計画・備蓄・訓練を季節ごとに見直していったらと思います。個別カードの作成、3日分のメニューづくり、集合場所と連絡手段の確認。どれも今日から始められる小さな一歩です。その一歩の重なりが非常時の大きな力になっていくはず。武蔵野会も、皆さまと歩調を合わせながら、この歩みを一緒に進めていければと考えています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 山田 貴美

特集

食の取り組み

彩り豊かな行事食

くすのき園

さくら学園では、旬の食材で四季を感じていただき、見た目も華やかに仕上げることで食べる楽しさや季節の移ろい、文化を感じられるよう月に一度「行事食」を提供しています。

年2回実施する嗜好調査で、カレーライスやお寿司が毎度上位に入ります。多くの方の人気メニューなので、8月はカレーバイキング、11月は寿司バイキングを開催しています。デザートを含め、お替わり自由なので、利用者の楽しみの一つになっています。

行事食は、利用者から「今月は何が出るの?」「見た目がきれいでいいね」との声が聞かれ、毎回楽しみにされていること



人気の握り寿司

が伝ってきます。これからも、食を通して季節の移ろいを感じていただき、また利用者の楽しみの一つになるよう心を込めた行事食を提供していきます。

おやつバイキング

大島恵の園

昨年10月に給食提供方法をクックチルに変更し、今までのバイキング給食提供が難しくなったため、日曜日に提供しているおやつをバイキング形式で実施できないか考えました。給食委託業者に協力いただき、かねてから取り扱っていた洋菓子を提供することとしました。レアチーズケーキ、キャラメルケーキ、いちご抹茶のロールケーキ、バナナとチョコのソフトクレープを食べやすくカットしてテーブルに並べました。その光景はまるで洋菓子店のよう。利用者から「いっぱい食べちゃった」、「きれいで美味しかった。またやりたい」と好評を頂きました。おやつには「第4の食事」としての役割や精神的な満足、リフ

レッシュ効果も期待されています。選肢肢が少ない離島環境で、利用者満足に少しでもつなげる取り組みとして定期的に行的に行っています。



どれにしようか迷います

栄養相談／食の支援

九品仏生活実習所

ご家族の方から体重増加や摂食などの相談があった際は、施設の様子をお伝えし、要望を聞きながら一緒に改善方法を検討します。入院後に体重減少があった利用者には、栄養士や言語聴覚士、看護師と連携して嚥下機能を評価し、食形態を個別に調整しました。とろみ調整など厨房の協力も得て、安全性と摂取効率を考慮した食形態変更を行い、摂取量の増加につなげました。面談を通じて、家庭の食事環境把握や、嗜好の確認を行い給食へ反映しました。また、姿勢や介助方法を確認する事で、食べやすい環境も整備しました。外出時は、食事を楽しんでもらいながら食事量の確保が出来るよう、

むさしの武蔵野

目に見えない
苦手さ

「カクテルパーティー効果」を知っていますか。例えば、パーティー会場など、沢山の人の声や会話が飛び交う場所で、自分の名前を呼ばれた途端、その声が鮮明に聞こえる体験をしたことがないでしょうか。これは、騒がしい環境でも、自分に関係ある情報や興味のある会話などを無意識に聴きとる脳の働きがあるからで、脳が情報のパンクを防ぐために行っていると考えられています。

私たちの中には、この機能がうまく働かない人がいることがわかっていきます。その人たちにとって騒がしい場所は苦痛を伴う場所です。

また、世の中には偏食の方がいます。偏食は味(味覚)や匂い(嗅覚)が苦手ですが、他にも、揚げ物が刺さるようで痛い(触覚)、イチゴや白米の粒々が気持ち悪い(視覚)、噛みしめる時の音が苦手(聴覚)といった理由で食べられない人たちがいます。これは感覚に過敏さ(鈍さ)があることが原因です。

困っていない人は体感できないた

日常生活に近い形の食形態へ加工することに取り組みました。これにより、体重は回復傾向を示し、外出時も安心して食事を継続できるようにになりました。

今後も、他職種やご家族と連携し、利用者の健康維持・改善に努め「食の支援」を充実させていきたいと考えています。



美味しさそのままのペースト食

お楽しみ給食

東堀切くすのき園

くすのき園では、年に2回「お楽しみ給食」を企画しています。いつもとは違う特別感、バラエティーに富んだメニューで利用者皆さんに楽しい体験を広げることがを目的にしています。お一人お一人が食べたいメニューをその場で選ぶ大切な機会でもあります。毎回テーマにそったメニューと会場の雰囲気作りを行っています。今年1回目のテーマは「梅雨に負けるな!スタミナバイキング」元



ウェルカムボードでお迎え

防災食と地域貢献

八王子生活実習所

非常時に備え3日分の防災食を常備し、期限前に入れ替えを行っています。使用することなく賞味期限を迎え、入れ替える度に防災食の活用方法を検討していますが、

今回期限を迎える「わかめご飯(アルファ米)」の寄贈申し出に近隣保育園から手が上がり、9月末に日中活動としてお届けしました。10月初旬、早速給食として提供され、子どもたちに防災食を体験してもらえました。今後もしばしばいう時に支え合える関係構築につなげていきます。



アルファ米のわかめご飯

敬老会の祝い御膳

西水元あやめ園

当園では、賀寿を迎える方を毎年敬老会でお祝いし、祝膳を囲みます。今年も多くの方が華やかな雰囲気になりました。今年は、卒寿の方が6人、傘寿の方が1人、喜寿の方が1人でした。スーツを

め、「気にしなければ大丈夫」「好き嫌い」として、理解や共感がされにくいものですが、当事者にとつては死活問題です。これらは、他の人と脳の働きの違いが大きいために起きる現象であり、成長とともに自然に馴染んでいくものとは少し違います。もし、この苦手さや困り感が、「日常生活に絶対に必要な状況」と関係するものであったらどうでしょうか。

自閉症を含む発達障害のある方には、こういった周囲の人に共感されにくい苦手さがあることがわかっていきます。先を予測(想像力)することや会話の流れを読むことが苦手など、コミュニケーションに関与している場合も多く、不登校や引きこもりなどにも関わる要因です。

この問題は、当事者が、「別の方法で学習する」「代わりになる手段を身に付ける」「苦手なものを適切に避ける」などを、サポートを受けながら学べるとよいのですが、何よりも周囲の人がこういった「目に見えない苦手さ」があることを理解して当事者を受け入れることが非常に重要です。

練馬区立大泉町福祉園

施設長 大関智

着た職員が皆さんをエスコートすると、皆さんの表情も緩みます。本日のメニューは、赤飯、天ぷら盛り合わせ、炊き合わせ、茶碗蒸し、彩り寒天寄せ、すまし汁、祝饌頭でした。机上に名札と献立をお一人ずつ用意する特別感満載で会食は進みます。後半は、昨年一年間のご様子をスライドで振り返り、全員で節目の日をお祝いしました。



特別な日の、お祝い御膳

オリジナルお弁当DAY 駒沢生活実習所

8月に「オリジナルお弁当DAY」を開催し、向日葵で装飾した食堂内で、ご飯・おかず・デザートを3種類ずつビュッフェ形式で用意しました。お弁当箱にご自身で選んだご飯やおかずを詰めてオリジナル弁当を作っていました。

きます。目移りして悩まれる方、好きなメニューへ一目散な方など、わいわい楽しみながらお弁当を完成させました。普段と違う食堂の緊張感、自分でお弁当を詰めた満足感、利用者皆さんの様々な顔を見ることができ、イベント食の大切さを改めて実感しました。「どんなメニューだと喜んでもらえるか、装飾はどんな風にしようか」と、たくさん考えた時間が楽しい給食につながり、皆さんの笑顔を見られることを楽しみに計画を練っていました。私だけのお弁当



私だけのお弁当

みんなで決めよう リクエストメニュー 光が丘福祉園

当園では、季節の行事食をはじめ、リクエスト食やセレクト食、屋台、お楽しみランチ、炊き出し訓練など食に関わる様々なイベントを行っています。特に毎月のリクエスト食は、4つの活動グループが順番にメニューを考えて献立に取り入れています。

本や雑誌、インターネットで調べ、グループミーティングで意見を出し合い、メイン料理やデザートのだけでなく「お弁当箱で食べたい」などの意見も出てきます。意思表出が難しい方には、写真や絵を用意し、視線や表情から選んでいただきます。選ばれなかったメニューは後でこっそり献立表に入れることもお楽しみのひとつです。リクエスト食は、各グループの皆さんの個性が光るユニークメニューが多く、園全体で毎月楽しみにしています。



選ぶ楽しみ～8月27日のリクエスト食はわかめご飯、餃子、コーヒゼリーなど

クックチルドへの移行 千代田区立障害者福祉センター えみふる

当施設は給食設備が無く、生活介護の利用者はお弁当持参か外部のお弁当を注文されていました。短期入所や共同生活援助では、食材宅配サービスを利用し、職員が

朝と夕に調理していましたが、利用者が増え調理量に限界が来たため、クックチルド（湯せん調理）へ移行しました。以後、利用者やご家族からは「手作り感覚で温かみのある食事を提供してほしい」との要望が続き、改めて検証したところ施設の設備を一部改修すれば給食を提供できることがわかり、令和6年11月から給食委託会社と契約し、生活介護・短期入所・共同生活援助の皆様へ現地調理での昼食と夕食を提供しています。温かみのある食器を使い、見た目や香りにも気を配ることで利用者からは「美味しい」と好評です。食数の関係で職員も時々喫食していますが「家庭的」「定食屋みたい」と好評です。「今日の給食は何だろう」と楽しみにしている姿を見ると、改めて食の大切さを学ぶ機会となります。



今日もおいしくいただきます

地域貢献と栄養士の役割 リアン文京

リアン文京は都市型複合施設

防災食の取り組み 小平福祉園

園が本格的に防災食の準備に取り掛かった平成30年当初は何かから始めていいのか悩みましたが、手本に沿って準備し始めました。180人分を1日3回3日分。発注は2年に分け行いました。大変なのはそれからです。品数は30種類程、賞味期限が異なるので期限に合わせて給食の献立を組み、入れ替え用を購入しなければなりません。近年は美味しくなると感じますが、やはり作り立ての給食にはかないません。実際の給食で不評があり、使い勝手が悪いものは種類を変更しました。

ローリングストックも試みていますが、コスト面のメリットが大きく、普段食べ慣れた物を提供できるため障害のある方にも適しているのが防災食です。実際の災害を想定した取り組みはまだありますが、必要だ改善が必要です。



日々進化する防災食メニュー

その人に合わせた食形態 練馬福祉園

練馬福祉園では、5種類の食事形態を提供しています。常食は特別な加工をしていない形状。粗きざみ食は一口大にカットし丸飲みの方や咀嚼力が弱い方に提供しています。きざみ食はみじん状にカットします。誤嚥しないよう、料理によってトロミ剤でまとめる工夫もします。ペースト食はきざみ食より更に細かく、まとまりやすくなめらかにした物です。歯が無い方、咀嚼や飲み込む力が弱い方に提供しています。ソフト食は、ミキサーにかけた物を、ムース状に固めた物です。ソフト食の特徴は舌で潰せる柔らかさがあり、滑りがよく飲み込みやすいことです。また、魚や肉等の型を使い、色合いや見た目も良く上がります。

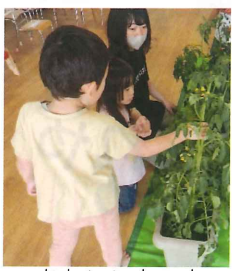
食形態の変更は嚥下機能検査を行い、歯科医に食事の嚥下状態を見ていただき個別に対応しています。



目でも味わうペースト食

食を育てる大切さ すぎな愛育園

春先に近所の花屋からミニトマトの苗をいただき、皆で育てることになりました。トマトは絵本や手遊び歌に出てくるので子どもたちには馴染みですが、苦手な野菜の一つでもあります。4月に皆でプランターに苗を植えました。「なにこれ？」と葉に触れたり、摘まんでみたりと興味津々。子どもたちが撒く水を吸って順調に育つミニトマトに花が咲き、緑色の小さな実がつくと「何かあるよ」と見入る子どもたち。7月には色付き始め、見慣れた赤いトマトに「すごいね」と大喜び。そして待ちに待った収穫。房から実を摘み取り、給食で食べることに。「トマト切るよ」と声をかけると、視線はまな板に釘付け。お皿に乗せると、匂いを嗅ぐ、断面を触る、と様々な反応を見せていました。数カ月をかけた思いは特別なようで優しい笑顔でミニトマトを眺めていました。2歳から5歳の幼児期、すぐに食べられなくても育てる経験が食材への興味や関心を育む機会となり「食べる」に繋がれたらと思います。



かわいいトマト



食事相談で地域を支えます

ニユー ラウンジ

「ガリガリくるくる」 表現活動が 取材されました！

世田谷福祉作業所

世田谷福祉作業所の「紙すきの仕事」と「生活介護の支援」を組み合わせ、それぞれのその時の想いを痕（あと）にしてできた「版画」。この制作の様子を、東京都社会福祉協議会知的発達障害部会から取材されました。

取材前は、のんびりとしていた利用者のみなさんですが、いざカメラを向けられると表情や動かす手に変化が表れ始めました。ガリガリと先のとがった道具で紙を削る音、トントんと金づちのようなものを使い叩いて響く音、小気味よい音の連続とともに現れた点や線、そして、顔がグッと紙に近づき真剣な表情へと変わりました。いつもと違う雰囲気になかなか始められない方や、台紙の段ボールを突き破るほどのみなぎる力で紙と向き合う方、喜びすぎて笑顔がずっと消えない方もいました。インクをつけた紙を印刷機に挟み、くるくると手で回す印刷作業にも

慎重に向き合う姿がありました。蛍光灯を消し、自然光を入れた室内での撮影は、カメラ画面を見た支援者から思わず「すてき！」と声が上がるほどでした。ファインダー越しに見えた風景は、ひとりの利用者さんがクローズアップされた世界で、今後の活動へとつながる新たな気づきをもたらしてくれたと思います。

この表現活動を多岐にわたり支え導いてくださったのが、デザイナーのHUMORABO（ユーモラボ）さんと版画家の空谷圭章さんです。当日はHUMORABOさんにもお越しいただきました。何が語られたのか出来上りを楽しみにしています。版画制作を通して感じたこと、活動の視点、支援とは等々、職員の想いも語られています。

動画は11月27日～29日飯田橋セントラルプラザで行われる福祉事業所の作品展示と商品販売のイベント「Session! TOKYO 2025」で「ゲンキノカタマリ5」で放映されるほか、東京都社会福祉協議会のホームページでも見ることが出来ます。また、今年も12月に「ガリガリくるくる展 vol.02」（施設併設のしあわせの森）に「CAFÉにて」をやりまします。このイベントは「作品展」から「作品展と販売会」へバージョンアップしてきました。唯一無二の版画作品、そしてアーティストの皆さんと出会う

ていただけたらと思います。



取材を受ける利用者の皆さん

ふくしフォーラム2025 開催

これまで個別に実施していた武蔵野会セミナー、支援実践集表彰、永年勤続者表彰をフォーラムとしてまとめ、今年度は10月16日に八王子で開催しました。

第一部は、セミナーとして弁護士の間哉直人氏（当法人理事）に登壇いただき、「障害のある人の権利擁護についてあらためて考える」というテーマでご講演をいただきました。その後、支援実践集の表彰式（関連記事本紙8頁）を済ませ、第二部の会場で永年勤続者表彰を行いました。理事長から年数ごとの代表者に表彰状と記念品が贈呈され、受賞者を代表し、練馬福祉園の宮原施設長が謝辞を述べました。表彰を受けたのは次の方々（敬称略）です。

支援センター

宮野 徳翔（小平福祉園）
奥山竜之介（同）
豊島妃美子（同）
谷田 操（同）
皆川ひろ子（千代田区立障害者福祉センター）
田中 明美（光が丘福祉園）
勝川みどり（光が丘福祉園）
池ヶ谷慎太郎（同）
岩瀬 翔一（リアン文京）
松比良太視（同）
増田 雄（同）
大滝ひとみ（同）
中野 祐希（同）
服部 孝美（同）
李 祝平（同）
木村 幸代（同）
佐藤 友里（千代田区立障害者就労支援施設）
和田徹太郎（法人本部）



40年表彰を受賞された皆さん

施設あれや これや

八王子福祉作業所

8月22日（金）、夜カフェで日中と異なるメニューとアルコールを提供。来客は200名を超え、多数の地域の方に足を運んでいただきました。次回を期待してくださる声にこたえるため、わくわく計画を立てていきます。

西水元あやめ園

利用者皆さんの楽しみといえば出前。今回はウー・イー・イーに出前。今回はウー・イー・イーに挑戦。職員のヘルプで食事が届くと、目の輝きが一段と違います。当然あつという間になくなってしまいました。次も「ウー・イー・イーじゃない？」とのこと。

小平福祉園

自主生産品は、視覚以外の感覚で楽しめる工程で作成しています。毛糸でポンポンを作ったり、野菜やハーブを育て収穫したり、テープを切ったり剥がしたり、触感や香りでも楽しめる工程を工夫しています。

リアン文京

東京善意銀行かみつぐ助成金を活用し地域交流企画「炒飯を作ろう」を開催。抽選で選ばれた参加者が、行列のできるラーメン店から炒飯づくりの技を学び、名店の

味を再現。地域の名品を受け継ぐ機会となりました。

八王子市 心身障害者福祉センター

9月13日にすぎな愛育園と共催で「夕涼み会」を開催。あいにくの空模様でしたが、シャボン玉シヨイ等のアトラクションを屋内で実施し、当日は約400名の方にお越しいただき、お楽しみいただきました。

練馬区立光が丘 障害者地域生活支援センター

第13回すてっぷ演劇公演「みんなのラジオ」を11月2日に光が丘区民センター3階で行ないます。障害のある人もない人も共に練習を重ねた演劇公演です。本番に向けて、みんなで日々練習を重ねています。

千代田区立障害者福祉センターえみふる

コミュニティカフェ「ちよだん」は開設から1年半。地域の居場所として、現在3名の利用者が都合に合わせて就労体験を重ねています。10月からは千代田区社会福祉協議会のサロン活動の場所となっています。ようやく地域の顔になりつつあります。

北町福祉作業所

10月4日に「作業所まつり」を開催。アトラクションでアルパ演奏やネリマックスシヨイを、模擬店ではキッチンカーを招いて、一緒にまつりを盛り上げました。

勤続40年10名
小野 博久（さくら学園）
樋口 孝行（同）
宮原 康輔（練馬福祉園）
伊藤久美子（東堀切くすのき園）
本田 直記（さね川福祉作業所）
小磯はるみ（八王子福祉作業所）
近藤 広志（光が丘障害者地域生活支援センター）
野々村武志（鳥山福祉作業所）
多々良康子（小平福祉園）
松岡 利明（法人本部）

勤続30年10名
伊藤 麻美（さくら学園）
板谷 徹（大島恵の園）
桜井 明雄（同）
中田 淳一（同）
鳥入 米康（第2大島恵の園）
沖山 明子（同）
外山 良裕（同）
江藤 陽子（光が丘障害者地域生活支援センター）

高橋 律子（千代田区立障害者福祉センター）
津川 志帆（法人本部）
勤続20年21名
伊藤 圭（武蔵野児童学園）
梅山 哲也（同）
平山 洋介（さくら学園）
石井 千裕（同）
石田 眞弓（同）
増田 正行（練馬福祉園）
杉澤 剛（同）
篠原 透修（大島恵の園）
岩井 妙子（西水元あやめ園）
八島サチ子（同）
太田 友美（九品仏生活実習所）

金濱 享司（北町福祉作業所）
新田 満（同）
原 智央（世田谷福祉作業所）
望月 真純（鳥山福祉作業所）
古川麻衣子（小平福祉園）
馬場 健一（同）
堀田 徹（千代田区立障害者福祉センター）
山崎 裕子（リアン文京）
小林 達郎（同）
的場 康芳（千代田区立障害者就労支援施設）

勤続10年42名
石渡あすか（武蔵野児童学園）
佐藤 大地（さくら学園）
山下 愛美（同）
井口 広士（同）
根上由美子（同）
勝俣リザミル（同）
杉山八重乃（同）
長谷川牧子（同）
鶴田 晃弘（練馬福祉園）
宮内 宏子（大島恵の園）
阿部 利加（西水元あやめ園）
市原富美子（同）
小貫 純一（同）
人見 英伸（同）
清水 恵美（同）
青木矢津美（同）
井上 良子（東堀切くすのき園）
中村 晃子（同）
川瀬 菜実（駒沢生活実習所）
平良 由美（北町福祉作業所）
小林 直人（八王子生活実習所）
榎戸 祐香（同）
高橋美奈子（同）
佐藤麻記子（光が丘障害者地域生活

お知らせコーナー

11月

- 8日(土) くすのき祭り (東堀切くすのき園)
 15日(土) ふうせんパレー体験交流会 (光が丘福祉園)
 18日(火) ひかりフェスタ (光が丘福祉園)
 22日(土) わたぼうし祭り (八王子生活実習所)

12月

- 6日(土) 練馬区障害者フェスティバル (練馬地区)
 23日(火) ハピひかクリスマス (光が丘福祉園)
 24日(水)～25日(木) クリスマス会
 25日(木) 忘年会 (きね川福祉作業所)

1月

- 9日(金) 新年会 (東堀切くすのき園)
 9日(金) 成人を祝う会 (白鳥福祉館)
 14日(水) 新年会 (きね川福祉作業所)
 16日(金) 20歳を祝う会 (東堀切くすのき園)

【最優秀賞】
 世田谷区立世田谷福祉作業所
 「版画活動で広がる表現とつながる輪／小さな軌跡から伝わる想い」
 清田千乃・田中萌愛
 【優秀賞】
 八王子市
 心身障害者福祉センター

支援実践集表彰

広報委員会

令和6年度支援実践集の優秀賞が発表され、10月16日、左記の事業所が理事長から表彰を受けました。おめでとうございます。



入選した「KOMAJIN」

「自分だけという孤独から仲間と共に／聞こえない聞こえづらいのは自分だけではない」
 小池歩・木村郁美・小林直人
 【優秀賞】
 練馬区立大泉町福祉園
 「強度行動障害を有する自閉スペクトラム症者と支援チームの相互変容過程」
 大橋一恵・高岡春菜・大橋悠一
パラアート国際交流展入選
駒沢生活実習所
 10月1日から開催された「2025パラアートTOKYO第12回国際交流展」アートは障害を越え、国境を越える」で、駒沢生活実習所が出品した「KOMAJIN」が入選し、東京芸術劇場ギャラリーで作品が展示されました。



かぼちゃのマフィン

秋の味覚イベント
かぼちゃのマフィン販売中
 北町福祉作業所
 ☎03・3559・0361
 当所は秋になるとかぼちゃのマフィンを販売します。バターをベースにした優しい甘さで、コーヒールや紅茶とも相性抜群。小豆が入っており和菓子党にもお薦め。緑茶にも合うお菓子です。温かみある色合いなのでお土産にも最適です。

ショーケース

自主生産品紹介

旬の商品



ハロウィンクッキー

ハロウィンクッキー
ワークショップ販売中
 ☎03・5940・2822
 カフェBUNBUNでは、毎年この季節に「ハロウィンクッキー」を販売しています。キaramel風味のサクツとした食感とジャックオランタンの可愛らしい表情が特徴です。ハロウィンにおひとついかがでしょうか？

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する施設とグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772